

## てんかん診療 連携を確認 鹿児島市で勉強会

てんかん診療のネットワークを考える医療者向けの勉強会が8月30日、鹿児島市の鹿児島大学医学部鶴陵会館であった。医療関係者ら約120人が参加。地域で連携し、てんかん診療に取り組む必要性を確認した。

鹿児島大学病院に今春、てんかんセンターが開設されたのを機に、てんかん診療について幅広く理解を深めてもらおうと開いた。

特別講演では、国立精神・神経医療研究センター（東京都）の大槻泰介てんかんセンター長Ⅱ写真Ⅱが、「てんかんは担当する行政の部署が不明確で、診療施設の相互連携も不十分」と課題を指摘。「地域の医師とてんかん専門医をつなぐ体制を早急に整備することが必要」と訴えた。

参加した鹿児島県薬剤師会薬局の管理薬剤師、永長敬子さん（34）は「てんかんについて分かりやすく説明してもらい、患者に対し、

薬剤師として何ができるか考える良い機会になった」と話した。

